

工学部開設40周年を迎えて

工学部長 若林 功

成蹊大学工学部は2002年(平成14年)をもって創設満40年を迎えました。

戦後日本の産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術教育が国家的な要請となっていた中、1962年(昭和37年)に学園が創立50周年を迎えた記念事業として工学部が創設されました。学園創立の精神である「桃李不言、下自成蹊」の精神の下、工学部創設以来、教育の基本方針としては、堅実にして信頼し得る人格の養成を工学教育を通じて実施することとしてきました。この目標達成のために、学園の伝統である少数教育を行い、基礎教育を重視するとともに、技術あるいは研究に対する実践力の涵養に重きをおいた教育を目指して参りました。

創設以来、約10,200名の卒業生が本学部から巣立ち、科学技術を通して社会のさまざまな場で活躍し、日本の発展のために多大の貢献をされていることは、本学部の最大の誇りであります。初代工学部長福田節雄を始めとし、創設時以来さまざまな困難を乗り越え、今日の工学部を築き上げて下さった先輩方に衷心からの感謝をいたすとともに、先輩方のためまぬ努力の下に築き上げられてきた良き伝統を守り、でき得る限りの良い教育を行い、社会で活躍できる優秀な人材を今後も送り続けることが本学部の使命であるとの思いを新たにいたします。

21世紀は始まったばかりです。この世紀をより良い社会にしていくために、科学技術の果たすべき役割は益々大きくなっていくことでしょう。これからの日本の発展のためには、絶えず新しい技術を開発し、高い

技術に基づいた高品質の製品を作っていくことが求められています。さらに、ナノテクノロジーやライフサイエンスなど、将来の発展が待たれる新しい分野も生まれています。また一方、環境問題、食料問題、エネルギー問題ほか、さまざまな困難な問題も生じています。解決を迫られているこのような問題に対しても、科学技術に求められている役割は非常に大きいでしょう。このような状況の下、工学部に期待される役割は極めて大きいことを自覚しつつ、大きな夢を抱き、前に向かって進みたいと思います。

工学部における研究教育設備の面でもこれまでも水準の維持向上に努めてきましたが、かねてから念願であった実験実習棟が完成し、本年度より使用が開始しました。もの造りが工学の本領であることから、これは教育環境の飛躍的な改善であります。

40周年を記念して、成蹊大学工学部40周年記念講演会を開催するとともに、工学研究報告の本号を成蹊大学工学部40周年記念号とすることにいたしました。記念講演会では二つの講演、「研究開発にかける夢」講師 宗像誠二氏(工業化学科第2回卒業生、旭硝子株式会社中央研究所長)、「モノづくりと日本」講師 谷正紀氏(機械工学科第1回卒業生、三菱自動車工業株式会社副社長、グローバル生産統括本部長)が行われました。本記念号では、各研究室の研究教育活動の紹介とともに、産官学連携を図るために共同研究の提案を盛り込みました。

成蹊大学工学部のさらなる発展のために今後ともお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。